

支援センター名	にいつる体験活動・ボランティア支援センター
所在地	〒969-6403 福島県大沼郡新鶴村大字鶴野辺字広町730
連絡先	Tel 0242-78-3044 Fax 0242-78-3094 ホームページ http://www.vill.niitsuru.fukushima.jp/

事業の概要とポイント

昨年までの青少年の様子を見てみると体験活動に比べ、ボランティア活動に取り組む機会が乏しいという実態が見て取れた。そこで、青少年がボランティア活動に意図的・計画的に取り組むための環境づくりが必要不可欠であると考え、青少年によるボランティアグループを組織した。この「ヤンボラにいつる」と名づけたボランティアグループは登録制で、「地域のため、自分のため！できるときに、できることを！」をキャッチフレーズに青少年の自主的な活動を促していくよう配慮した。これにより、いままで少なかったボランティア活動に取り組む機会が意図的・計画的に提供できることとなった。実際の活動については、学社連携・融合の推進という観点から学校や各種団体との連携を強め、地域に根ざした活動に取り組んでいる。また、青少年の活動意欲を高めるための工夫として、まずは「ボランティア・ダイアリー」を活用することがあげられる。この「ボランティア・ダイアリー」は活動の記録表であり、これを通して青少年の活動の様子を学校に報告し、その後、「ボランティア・ダイアリー」は学級担任の手からメンバーに返却される。このことにより、学校（担任）は青少年の学校外でのボランティア活動についても把握し、その実績は様々な形で校内でも評価されることとなる。もう一つは広報活動の工夫である。支援センター独自の「ニッキー体・ボラだより」の発行はもちろん、村広報や新聞社への記事掲載など、青少年の活動の様子を積極的に発信している。

関係した学校・団体等の名称

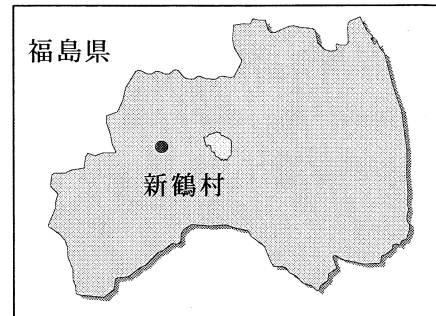
新鶴小学校、新鶴中学校、県立若松商業高等学校、県立会津工業高等学校、県立会津農林高等学校、県立大沼高等学校、学校法人仁愛高等学校
社会福祉協議会、日本赤十字奉仕団、文化協会、体育協会

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 新鶴村 3,891人

本新鶴村は、明治31年、新田村と鶴野辺村が合併し誕生、村制施行から百有余年を経過している。福島県西部の広がる会津盆地の西部に位置し、美しい丘陵・山間地勢など豊かな自然に恵まれた中で、村はさまざまな地域文化を育んできた。基幹産業は農業であるが、市場原理導

入による農業の効率化など抜本的な振興を図るための取り組みが求められている。また、「新鶴温泉健康センター」や宿泊施設である「ほっとぴあ新鶴」「ふれあいの森スポーツ公園」など憩いの環境充実や宅地造成、工業団地整備等にも取り組んできた。現在は「第四次新鶴村振興計画」に基づき、「しあわせを創るむ にいつる」の将来像のもと地域づくりに取り組んでいる。



企画から活動までの経緯

- 平15年 9月中旬 「ヤンボラにいつる」の組織・運営に関する要項を作成した。
 - 10月上旬 小・中学校へ趣旨を説明し、説明会についての日程を調整した。
 - 10月15日 コーディネーターが新鶴小学校を訪れ、放課後5、6年生に対して「ヤンボラにいつる」の内容を説明し、会員を募集した。
 - 10月16日 コーディネーターが新鶴中学校を訪れ、昼の放送を活用して全校生に対して内容を説明し、会員を募集した。
- ※高校生については、数日にわたり、駅や公民館などにコーディネーターが訪れ、約20名の高校生一人一人に対して内容を説明し、会員を募集した。
- 11月 3日 新鶴村公民館にて「ヤンボラにいつる」の結成式を実施し、小学5年生から高校1年生までの51名が会員登録した。その際、組織の名称も会員で話し合い「ヤンボラにいつる」と決定し、活動の方法等についての説明も行った。
 - 11月23日 「ヤンボラにいつる」の第1回目の活動として新鶴駅の清掃を皮切りに現在にいたるまで環境美化、募金活動、高齢者との交流、イベント補助など10回程度の活動を行ってきた。

事例の展開内容 (特色など)

○実際の活動内容

- ・ 第3回「新鶴体育館周辺的环境美化」では、小・中学生11名がコーディネーターとともに参加した。約2時間の活動後、数名の児童・生徒が「せっかくきれいにしたので、この状態をできるだけ長く維持するため、張り紙を書いて貼りたい！」と言い出したので、そこからまた1時間程度、張り紙づくりを行い、汚れのひどかったところに「ポイ捨て禁止」「いつまでもきれいに」などの張り紙を貼った。
- ・ 第5回「年賀状作成」では、日本赤十字奉仕団、社会福祉協議会と連携を図り、村内の一人暮らしの方々に年賀状を送付した。参加した8名が冬休みに公民館に集まり、一枚一枚丁寧に手作り年賀状を作成した。約50名の方々に送付した結果、受け取った方々から会員や支援センターにお礼の手紙や年賀状をいただいた。これを機会に一人暮らしの方々と異世代間交流につながればよいと考える。

○運営方法における工夫

「ヤンボラにいつる」の大きな特徴の一つとして、活動意欲を高めるための「ボランティア・ダイアリー」の活用があげられる。これは、会員が自分の活動内容を記録しておく会員証

のことで、会員は活動のたびにこれに活動日、場所、内容等を記入し、活動について証明してくれる人の認印をもらい、支援センターに提出する。これを受け取ったコーディネーターは、支援センター長である公民館長の証明印をもらい学校に届ける。学校の窓口としては体験活動推進主任の教頭先生をお願いしてある。教頭先生は受け取った「ボランティア・ダイアリー」を担任に渡し、担任の手からそれぞれの会員に戻されることとなる。これにより、会員の学校外（教育課程外）でのボランティア活動についても学校が把握し、さまざまな形で評価してもらうこととなる。評価方法や内容についてはあくまでも学校側に任せてあるが、励ましの言葉をかけたり、称賛するという点については共通の理解をしてもらっている。この「ボランティア・ダイアリー」の活用については、新鶴小学校、新鶴中学校には事前に了解を得ていたのでスムーズに活用できたが、高校（5校）については、校長もしくは教頭先生に直接面会して、「ヤンボラにいつる」の趣旨や「ボランティア・ダイアリー」の活用について説明し、5校とも了解してもらうとともに支援を約束してもらった。

企画・活動する上でのポイント・留意点など

○自主性を重視した組織運営

自主性を育成することに主眼を置いて、グループの名称も自分たちで話し合っただけで決定したり、活動内容について企画ミーティングを行うなど自分たちのグループ、自分たちの活動という意識が育つような工夫をしていく必要がある。また、会員同士がコミュニケーションを密にしたり、団結力を高めるためにレクリエーション、キャンプなどの企画もあわせて工夫していくことがポイントであると考えます。

○学校との連携

「ボランティア・ダイアリー」の活用の効果もあって「ヤンボラにいつる」の活動内容については先生方の認知度も高く、「学校だより」に掲載されるなど学校でも大きく取り上げられている。

今後より一層、学校と支援センターが一体となって組織を育てていくことが大切である。また、学校と支援センターが協力して「ヤンボラにいつる」と「児童会」や「生徒会」が共に活動する場を提供していきたい。

○地域に根ざした活動

本村のような小さな農村地域では、地域において青少年が活発にボランティア活動を行うことが、地域を元気にすることにつながる。そこで活動内容については児童・生徒の考えを尊重しながらも「地域と共に、地域のために」ということを意識し、地域に根ざした活動計画を立てるよう助言していこうと考える。また、地域の各種団体との連携を図り、可能な限り共に活動することにより、地域全体の活性化や教育力の向上につながっていけば幸いであると考えます。

評価

- 11月3日の結成式以来、約70名の青少年がボランティア活動に参加した。（2月末日現在）今までの状況を考えると意図的、計画的な活動が継続して行われたと考える。また、小学5年生から高校1年生までの発達段階の異なる児童・生徒が同じ目的をもって協力して活動で

きたことは、グループの縦のつながりを強くし、中学生、高校生のリーダー性を育成する意味でも大きな成果といえる。

- さまざまな形で広報活動を行ったことにより「ヤンボラにいつる」というボランティアグループの認知度が高まり、会員である児童・生徒たちからも「学校の先生方や地域の方々から励まされたり、誉められたりして嬉しい」といった声が聞かれた。また、励ましだけでなく、さまざまな活動を一緒にやりたいなどという要望が出てくるなど地域から期待される組織に育ちつつあると感じる。
- 最後に課題としては、現在は専任・副コーディネーター2名が組織の運営・活動内容の決定等に大きくかかわっているが、業務期間が限られているという問題がある。そこでこのグループを地域に根ざしたグループにするため、受け皿としての各種団体や地域の方々との交流をより深めていく必要がある。

実際の活動内容

実施日	場 所	活 動 内 容	参加人数
H15 11/ 3	新鶴村公民館	「ヤンボラにいつる」結成式	36名
11/16	ふれあいの森運動公園	いも汁づくり	1名
11/23	新鶴駅周辺	清掃活動	13名
12/ 6	新鶴体育館周辺	清掃活動、張り紙貼り	11名
12/ 7	構造改善センター	歳末助け合い募金	10名
12/25	新鶴村公民館	一人暮らしの方へ年賀状送付	8名
H16 1/ 6	新鶴幼稚園、民族資料館	清掃活動、ガラス磨き	18名
1/ 7	ディサービスちとせ	老人介護の補助	2名
3/24	新鶴村公民館	企画ミーティング	12名
3/30	新鶴幼稚園	ワックスがけ、園庭整備	30名



歳末助け合い募金をやり、集まった浄財は村の社会福祉協議会へ届けました。



新鶴体育館およびその周辺がとてもきれいになりました。

自分たちが巣立った幼稚園、中学生と高校生が協力して、高いところまできれいにしました。



昔ながらの民俗資料、きれいに整理し観やすくなりました。

